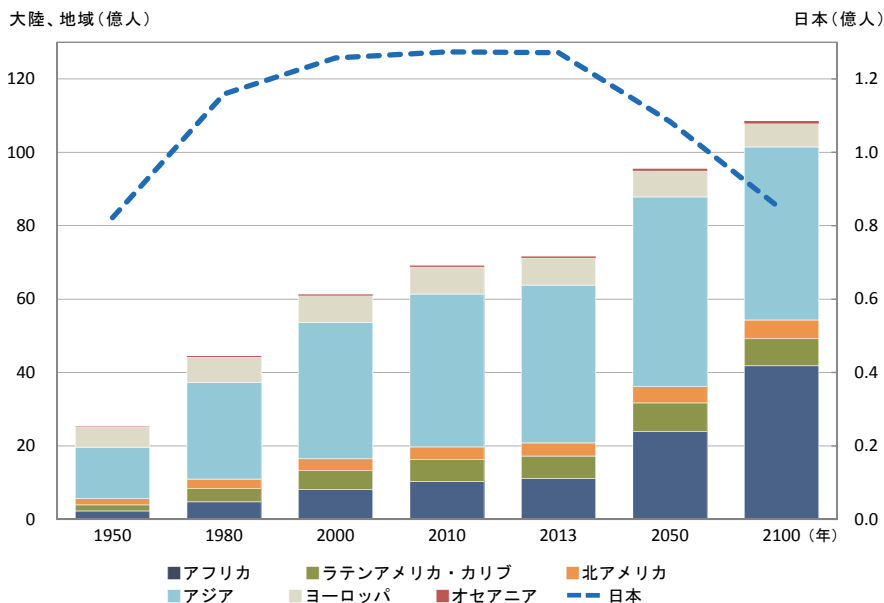


2-1 世界、大陸及び主要地域の人口（中位推計）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-1表 総人口」(p.55)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は、1950年以降飛躍的に増加し、1974年以降増加率は低下したものの、2000年には61億人に達し、2011年後半に70億人を超えた。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2012年改訂版(本書の資料出所)によれば、2010年から2015年にかけては年率1.1%の人口増加が見込まれ、2050年には中位推計で約96億人に達する見通しである。予測される人口増加の大半は発展途上地域である。人口増加は、人口規模の大きい国に集中しており、インド、ナイジェリア、アメリカ、コンゴ民主共和国、ニジェール、エチオピア、タンザニア、ウガンダ——の8か国で、世界全体の人口増加の半数を占める。

2011年の先進地域の人口は約12億人で、2050年には約13億人と、ほぼ同水準で推移するが、年間平均220万人の途上地域から先進地域への移民規模が予測を下回れば、さらに減少する見通しである。一方、発展途上地域の人口は、2013年時点で59億人であったものが、2050年には83億人に増加する見込みで、人口の86%が発展途上地域に属すると推測されている。